



刊夕日十月十

**常新新聞**  
 本社下町番地(電話六三〇番)  
 印刷所 常磐毎日印刷社

定部金貳錢  
 一ヶ月刊五錢  
 三ヶ月刊一圓二錢  
 半年刊二圓二錢  
 一年刊四圓二錢  
 郵費在內  
 電話六三〇番

玩具文具  
 ハーモニカ  
 ゴムマリ  
 糸類書籍  
**森下商店**  
 まめや號  
 平町一丁目

**腸胃** 専門科  
 淋病 皮膚病  
**松村病院**  
 平南町

毛糸製品各種  
 取揃へました  
 新柄セーター  
 肌部腰巻  
 毛シヤツ  
 其他期節  
 用品澤山  
**ツルヤ**  
 平四、電一四〇

**洋食**  
 美味評判  
**イウキ食堂**  
 平町細屋町(縣社通り)  
 オの部電話四六〇番

**生殖器の薬**  
**エキスピン**  
 一、夜良く寝れぬ人  
 一、ごうも頭がボンヤリする人  
 一、老衰を嘆く人  
 一、記憶減退の人  
 一、性力弱き人  
 特約店 下町田町  
**美田薬局**  
 電話五五一番

カフエー松ケ岡の  
**鍋御一人前金五十銭**  
 出前モ致シマス  
 松茸の料理種々季節の温い御料理と御飲物  
**カフエー松ケ岡**  
 公園口(電呼六五二、二三三)  
 有給女給さん入用

**外科一般**  
 耳鼻咽喉科  
 女性病科  
 ×光線科  
**赤心堂病院**  
 田町 電話四七五番

標商 録登  
  
**醬油 味噌 鰹節 酒類 罐詰食品**  
 屋問造製  
**鹽屋山崎合名社會**  
 電話 營業部 一〇番  
 工場 二七番

飲むとすぐキク  
**クノ一散**  
 齒痛、神經痛、頭痛の特効藥  
 平町各藥店に販賣す  
 試みられよ、  
 敷島のヒヨケ心を人とは、  
 商品ほごに日や雨の覆  
**ヒヨケ、シート、テント**  
 警城平町白銀町九  
**敷島ヒヨケ店**

遊覽團體開催  
 期日(十月十六日(日曜日)十月十七日(神嘗祭)十月十八日(火曜日))  
 會費金拾五圓也 豫定人員二百名  
 募集期間と雖も満員の際に締切候  
 但し(申込と同時に保證金として金參圓を納入し  
 残額拾貳圓は、十月十日迄に完納されたい  
 主催者 尼子亭 吉田直之助  
 電話二三〇番

**廿五歳禁酒法の要望**  
 常磐論壇  
 凡そ國勢を盛んならしむるには一つにして足りないが先づ次代國家形成の要素たる青少年をしてその心身を純潔剛健ならしむるより根本的なるはない、此の觀念の下に現下の我が國狀を見るに産業の萎微人心の荒怠犯罪の増加疾病の流行などあらゆる方面に於て社會的不安に脅かされつゝある而もその國家的難局の重大なる一原因としてその背後に飲酒の潜んでゐることは既に否み難い事實であり更にその飲酒そのものは毎年十億圓の富と六百萬石の米を徒費し食糧の缺乏を直接招致しつゝある等今や社會問題として國家問題としてこれが救済の實際策として先づ禁酒を斷行すべしと等しく社會の認むる處である、而して輿論の趣と此の既に大正十一年未成年飲酒禁止法となり今やまた二十歳禁酒法の要望となつたのである、此處に於てか青年禁酒の叫びは期せずして次代中堅國民青少年をしてその飲酒の魔手より救済し更に心身をして強健純潔ならしむる最良の策として

自他共に許さるゝ狀勢となつたその一度提唱せらるゝ社會民心は翕然として集まるに到つた、今その理由を説明するに  
 (一) 心身の完全は廿五歳以後にあり故に發育期の途中を以つて限度とする現行法では心身の保護も良習慣の固定も徹底せぬ  
 (二) 産業上にも種族蕃殖上にも最旺盛なる生産年齢者の飲酒による能率低下と惡遺傳を避くるため  
 (三) 青年團全員に及ぶ  
 (四) 軍隊を禁酒せしめ得る  
 (五) 學生を禁酒せしめ得る  
 (六) 廿五歳を一區畫とする社會的習慣と一致しその適用にも甚だ便利である

### 晴れの女子庭球戦に

#### 磐城高女 渡邊組優勝

夜來の雨晴れて秋風吹く  
福島高女コートにきのふ

午前十一時福島高等女學校庭、氣つかはれた昨夜來の降雨はすつかり晴れて選手連は勿論のことファン連中を喜ばせる一發の祝砲空高くあがれば昨年の優勝校たる福島女子師範軍が優勝旗を先頭に参加校九校二十七名が拍手に迎へられて入場會長相馬友次氏が「女子スポーツの隆盛を一層奨励するたため、我々はこの大會を開催するものである。スポーツマンシップで正々堂々と技を競はれたい」と開會の挨拶を述べ、續いて協賛伊東知事を代理して

### 工場閉鎖と聞か

#### 従業員總怠業を决行

品川白煉平湯本赤井各工場  
事件は重大化する模様

品川白煉瓦株式會社平湯本赤井の各工場では東京本社が事業不振のため來る二十五日を限り閉鎖すると聞いたので俄に騒ぎ出し従業員數百名は八日來何れも怠業状態に入り仕事をする者殆どなく各所に集まつて種々對策を協議するところあり相當重大化する模様なので平署では警戒を怠らないがその後關東勞動組合主事細谷松太氏は來郡状況を詳細に調査の上八日引揚げた

### 泣き付く

民政黨支部  
必要のある場合は  
伊東知事開放す  
小名濱重要商港計畫に伴ふ  
淺野總一郎氏よりの百萬圓  
寄附契約承認に際して萬一  
の結果をおもんばかり臨時  
縣會の  
招集を 中止するこ  
とを言明したので本縣民政  
黨支部では狼狽し種々對策

### 郷土の生める偉人

#### 白井遠平翁長逝す

昨夕八十二歳の高齡にて  
葬儀は十五日頃郷里で執行

郷土の生める偉人白井遠平翁は豫て東京市本郷區上富士前町の邸で療養中であつたが昨九日午後四時遂に逝去した、享年八十二、葬儀日取等は未だ決定せぬが東京に於て告別式を執行遺憾は十五日頃郷里上小川村の自邸に歸葬する筈、翁は平藩の儒者神林復所門下の高材として紅顔十五歳夙くも名主代勤に選まれて以來その壯年時に於て縣會成立後

を協議する處あつたが釘本幹事長は八日縣廳に出頭伊東知事に面會  
小名濱の運命を決する大問題であり亦縣會役員の決定を早くせぬことは双方の事務運用上、種々支障を來すから是非共招集してほしい  
と要求する處あつたが伊東

### 愈々改善される

#### 豊間回春園の經營

新案を提げて今縣會へ提案  
川井園長の宿願達せらる

本縣唯一の結核療養所たる回春園の經營に就ては經費の關係上徹底を缺くのみならずあり園長川井醫學士並に縣衛生課に於ては之れに關し種々  
苦心し 來りたるが  
渡邊衛生課長は着任以來同園の改善に留意し今回昭和三年度の豫算編成をなすに當り川井園長を招きて逐一開園以來の状況を聴取し從來の經營方法に缺陷ありしを認め改善案を樹て、來る可き縣會に臨む事となりたるがその案の内容を聴くに從來の自費患者は一度入園し種々

知事は止むなき  
事情ある場合は別として目下左程に切迫を感せぬと思ふから一應は考慮するも主務省における重要港灣調査會の結果に待たねば言明出來ないとおつさり突つ放された

### 落成式に

#### 山内課長も臨席

植田町小學校は昨年十月總工費八萬七千四百五圓を以つて平屋建三棟普通教室十九特別教室三建坪總數八百九十坪運動場三千坪の大小學校を建設本年六月竣工したのが落成式は今日午前十時から山内學務課長大越、小池、兩縣視學、安井屬其の他各町村長郡内小學校長町有志等參列盛大に舉行することとなつた席上建築功勞者として小野忠衛氏外三十五名を表彰する筈で當日植田消防組では協賛會を組織し來賓の歡待に力をつめ餘興として花角力、芝居弓術等を催し青年團同窓會では假裝行列夜間は提灯行列を行ひ十一、十二の兩日は同校内に縣下六十二小學校出品の學藝展覽會を催すとをほちき出し小楊子にさしたものを一、二本添へて出す。藁は葉をあらひ水氣を去り酒、酢、片栗粉を一じよに鍋に入れて火にかけかきませ煮たつたとき火からおろしてさまし藁をすりませ煮返し酢を少しづつ入れ後に裏ごしにかけてそれをあゆにかけて食べます



酒 (三勺)  
枝豆 (二合位)  
かたくり(大匙半分)  
先づ枝豆をざつと洗ひ金串を結の下願から突き刺し二針位通じて形を直し全身に鹽を少しふりかけた後中火にかけて焙りひれを焦がさぬやうふんはりと焼き、一尾宛皿に盛り枝豆をゆでて豆

日間元郡議事堂に開催する事となり十三日審査を終り十四日即賣を行ふ筈であるが褒狀授與式は十五日午後一時から同會場にて第一回擬賞者の分と共に行する

地方の炭田を開發し以て地方百年の大策を樹立すべく明治二十六年五月澁澤榮一、淺野總一郎氏等と謀り磐城炭礦株式會社を創立してその取締役に就任し鋭意畫策常磐線鐵道の敷設を促進し、其輸送を圓滑敏活ならしめ地方に於ける石炭輸送上に一新紀元を劃したる功績真に没すべからざるものあり、更に二十八年松方正義、川崎八右衛門氏等と入山採炭株式會社を創立して取締役に就任し、斯くして常磐炭界躍進の基を作り盡卒敢て倦まざりしが廿九年更に地方最初の金融

機關として株式會社磐城銀行を創立して自ら其の頭取となり地方産業の伸展に資し次で三十六年北漸して好間炭礦株式會社を創設する等現今磐城炭田に於て一ケ年數百萬噸の出炭を見つたあるの殷盛は之れを悉く氏の功績に歸せざるべからず大正十四年の功により勳四等瑞寶章を授けられた、斯して所謂功成り名遂げたるの翁は男前代議士縣農工銀行頭取博之氏以下敬愛の裡に圍繞せられ悠々自適の晩年を樂みつつあるの時この計に接す政黨後進何れもそ

胡摩澤區民  
縣に陳情書  
排水工事に就て  
平町縣立磐城中學校の敷地は曾て畑地であつたが當時は大雨でも自然に排水されてゐたが學校設立後は降雨毎にグラウンドにたまつた雨水が一時に胡摩澤方面に流出し附近民は非常に困つてゐたが今回胡摩澤、北目の兩町民は適當な排水路をつくらねば困ると協議の結果排水工事を縣に迫ることになり花澤區長外三十餘名連署して縣に陳情書を提出した